

キリスト教委員会のHP(<http://rakuno-ce.org>)にアクセスして事前に聖書や讃美歌の確認をしましょう。

の祈りを唱えて食事をしたと思われます。日本の「頂きます」や「ご馳走様」は命を与えてくれた生き物や農作物を作ってくれた人たち、そして自分たちを守護する神々や先祖に対する感謝ですが、一神教であるユダヤ教、キリスト教、イスラームでは感謝の全てを唯一神に捧げます。この感謝は身体の栄養を摂ることに留まらず、共に食することに伴う内面の滋養を重視する宗教観と人間観を表します。12節は11節の「欲しいだけ分け与えられた」という説明に応じて、全員が満腹になったことが報告されています。五つのパンと二匹の魚で全員が満腹したとは俄には信じられませんが、各自が自分の持ち物を出し合ったといった合理的な説明も試みられています。日本の昔話を読む場合と同じように、この奇跡物語に込められたメッセージを読み取ることが大切です。わたしはこの物語から「シェア」の大切さを読み取ります。現代世界は競争による格差が広がり、富の偏在として知られるように、世界の富の保有率は、上位10%が76%、中間層40%が22%、下位50%が2%であり、しかも上位1%が38%を占有しています。これは19世紀初頭の西洋帝国主義時代と同レベルです。失われた30年によって、日本の富の保有率も上位10%が57.8%（上位1%が24.5%）に上昇し、格差が広がっています。このような世界において本学にできることなど微々たるものかもしれませんが、三愛精神と健土健民、そして循環農法はSDGsに先駆けた飢餓と貧困の問題に資する思想と実践でもあります。富の偏在も問題ですが、まず取り組むべきは飢餓と貧困です。格差社会で勝ち組になることなく、食の安全を通じて「シェアする世界」をキリスト教主義の「酪農学園大学の使命」として実践できるよう願います。

【聖歌隊で一緒に歌いましょう】

大学礼拝では学生・教職員の有志による聖歌隊が合唱をします。歌ってみたい学生は、礼拝後にオルガン前にお越しください。お待ちしております。

【次回の大学礼拝・オルガンコンサート】2025年10月21日（火）10時40分

次回の大学礼拝は2024年度に酒井薫さんよりご寄贈いただいたオルガンの披露を兼ねた礼拝とコンサートとして実施します。ご出席ください。

- ・第1部 大学礼拝 10時40分 奨励：朴 美愛（学園宗教主事）
- ・第2部 オルガンコンサート 礼拝後 担当：学生・教職員有志

【前回の大学礼拝】2025年10月7日（火）

学生：30名 教職員ほか：12名 合計：42名

【大学礼拝週報】2025年度 第19号（後学期第4号）

2025年10月14日（火）午前10時40分

酪農学園大学 黒澤記念講堂

《礼拝順序》

司 式 小林昭博（宗教主任）

奏 楽 佐藤理恵（野幌教会会員）

讃美指導 相原晴伴（循環農学類教授）

前 奏 主をほめたたえよ（アーベル作曲）

讃美歌 讃美歌21 404番（あまつましみず）

聖 書 ヨハネによる福音書6章11-12節

さんび 酪農学園大学聖歌隊

奨 励 「シェアする世界——酪農学園大学の使命」

祈 り 小林昭博（宗教主任）

讃美歌 讃美歌21 566番（むくいを望まで）

報 告

後 奏 おおイエス・キリストよ、わが生命の光（ヴァーク作曲）

【本日の聖書】ヨハネによる福音書6章11-12節

11 さて、イエスはパンを取り、感謝の祈りを唱えてから、座っている人々に分け与えられた。また、魚も同じようにして、欲しいだけ分け与えられた。12 人々が満腹したとき、イエスは弟子たちに、「少しも無駄にならないように、残ったパンの屑を集めなさい」と言われた。

【奨励】「シェアする世界——酪農学園大学の使命」

本日の聖書は五千人の供食の物語の一節であり、イエスがパンと魚を自分についてきた人々にシェアする場面です。11節はキリスト教の聖餐式の原点とも言える場面です。ユダヤ教の食事儀礼に則り、イエスはパンと魚のそれぞれに応じて「～を造られた主よ、汝（の名）は祝されん」と祝福